

2011年3月期 第3四半期(累計期間)決算説明資料

**1 連結業績について**

1)連結業績概要	…P. 3
2)売上高の変動要因	…P. 4
3)営業利益の変動要因	…P. 5
4)セグメント別売上高・営業利益	…P. 6
5)地域別売上高	…P. 11
6)設備投資他	…P. 12
7)損益計算書	…P. 13

**2 2011年3月期 業績予想**

1)2011年3月期 業績予想	…P. 14
2)セグメント別売上高・営業利益	…P. 15
3)四半期毎のセグメント別売上高	…P. 16
4)四半期毎の営業利益	…P. 17

**3 その他の情報**

1)配当予想の修正について	…P. 18
2)海外市場向け新製品	…P. 19
3)インド現地法人設立	…P. 20
4)代表取締役の異動	…P. 21

当資料に記載されている将来の見通しなどについては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成されたものです。当社を取り巻く内外の経済情勢、業界動向、商品需給、新技術の進展などにより、今後において業績見通しの変動するなどのリスクや不確実性を含んでおります。

従いまして、投資判断を決定する場合には、本資料の将来の見通しのみには依拠することは、お控えくださるようお願い申し上げます。

また、本資料の将来の見通しに関する記述につきましては、法律上その手続きが必要となる場合を除き、事前予告なく変更することもありますので、ご了承ください。

1 連結業績について		連結業績概要		前年同期比	
<b>売上高</b>		金融市場での新製品投入効果や中国をはじめとするアジア地域での販売が堅調に推移し、前年同期に比べ増加。			
<b>利益</b>		体質強化戦略の一貫として、製造原価の低減を推移したことにより、営業利益・経常利益・四半期純利益ともに前年同期に比べ増加。			
(百万円)	2010年3月期 第3四半期 累計期間	2011年3月期 第3四半期 累計期間	前年同期比		
<b>売上高</b>	96,320	99,469	+3.3%		
うち 保守売上高	23,566 (24.4%)	23,832 (24.0%)	+1.1%		
<b>営業利益</b>	5,185 (5.4%)	7,401 (7.4%)	+42.7%		
<b>経常利益</b>	6,359 (6.6%)	7,784 (7.8%)	+22.4%		
<b>四半期純利益</b>	3,626 (3.8%)	4,427 (4.5%)	+22.1%		

2

## 2011年3月期 第3四半期累計期間の「連結業績」について

当第3四半期累計期間は、前年同期と比べ増収増益。

### 〔売上高〕

前年同期に比べ3.3%増加。

金融、流通・交通、海外の各市場は堅調に推移。

遊技市場は前年同期に比べ減少。

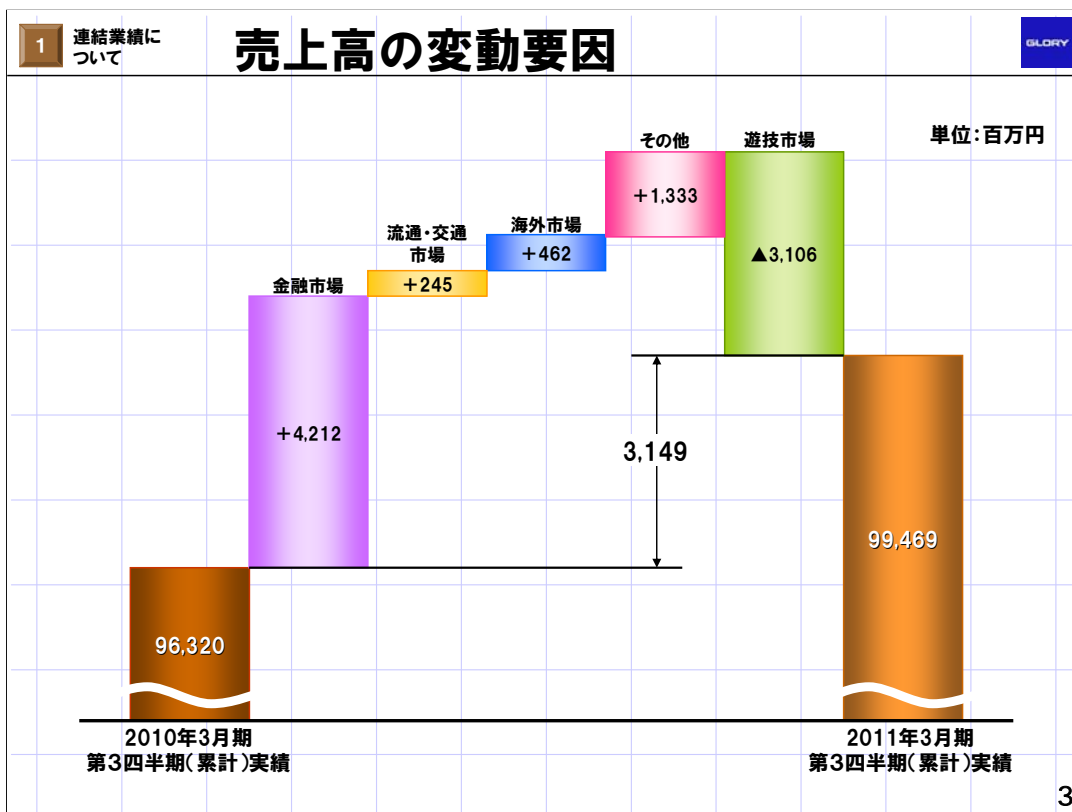
### 〔利益〕

営業利益は、売上増と製造原価の低減により、

前年同期に比べ42.7%増加。

経常利益は、為替差損が発生したが、前年同期に比べ22.4%増加。

四半期純利益は、減損損失やグループ会社の合併にともなう退職給付費用が発生したが、前年同期に比べ22.1%増加。



### 前期と当期の「売上高の変動要因」について

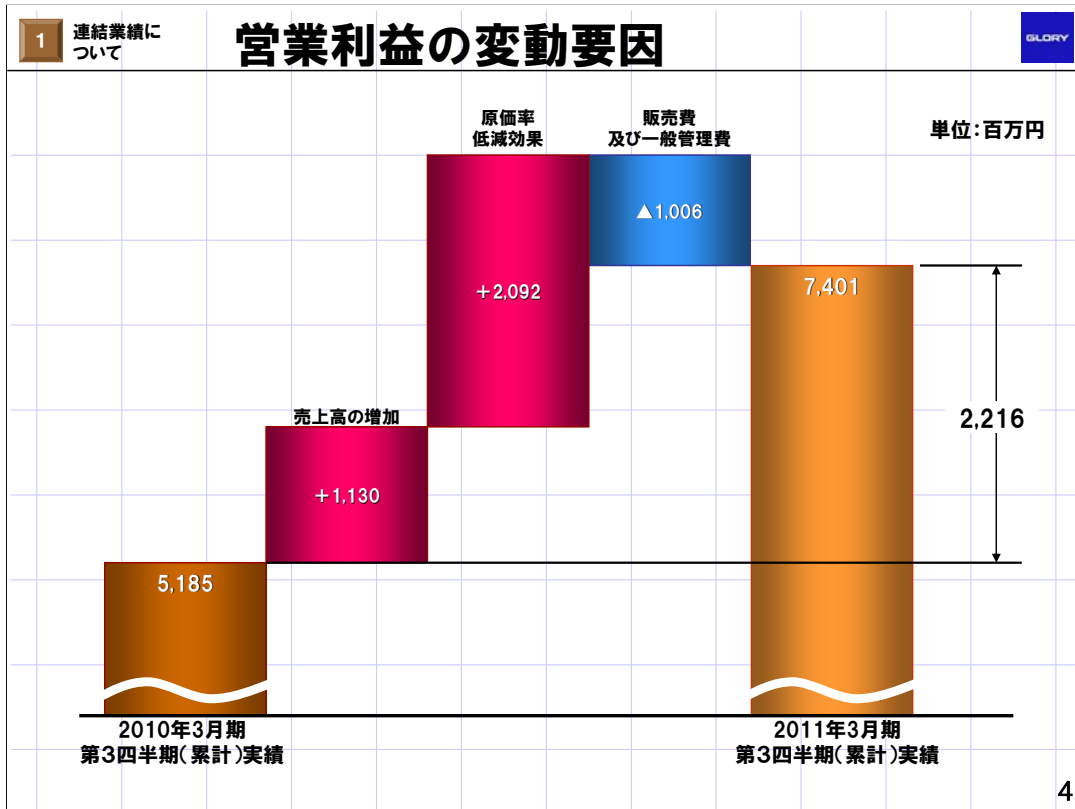
当第3四半期累計期間は前年同期に比べ31億4,900万円の増収。

#### [売上高が増加したセグメント]

金融市場は42億1,200万円、  
 流通・交通市場は2億4,500万円、  
 海外市場は4億6,200万円、  
 その他は13億3,300万円の増加。

#### [売上高が減少したセグメント]

遊技市場は31億600万円減少。



### 前期と当期の「営業利益の変動要因」について

当第3四半期累計期間は、前年同期と比べ22億1,600万円の増益。

#### [主な増加要因]

売上高増加によるものが11億3,000万円、  
原価率低減の効果が20億9,200万円、  
合計で32億2,200万円の増加。

#### [主な減少要因]

販管費は10億600万円増加。

# セグメント別売上高・営業利益

(単位:百万円)

2011年3月期 第3四半期 累計期間					
セグメント	売上高	前年実績	計画値	営業利益	計画値
		前年同期比	計画比		計画比
■ 金融市場	32,476	28,264 +14.9%	33,979 ▲ 4.4%	3,605	2,918 +23.5%
■ 流通・交通市場	19,195	18,950 + 1.3%	20,472 ▲ 6.2%	1,605	1,780 ▲ 9.8%
■ 遊技市場	19,438	22,544 ▲13.8%	20,166 ▲ 3.6%	1,187	1,028 +15.5%
■ 海外市場	19,607	19,145 + 2.4%	21,386 ▲ 8.3%	1,013	1,437 ▲29.5%
■ その他	8,750	7,417 +18.0%	8,455 + 3.5%	▲11	244 ▲104.5%
■ 自動販売機市場	4,811	4,540 + 6.0%	4,331 +11.1%	▲341	▲130 ▲162.3%
合 計	99,469	96,320 + 3.3%	104,458 ▲ 4.8%	7,401	7,408 ▲ 0.1%

※計画比は2010年11月5日時点のもの

## 「セグメント別の業績」について

### 【セグメント別売上高】

前年同期との比較では、遊技市場を除く全てのセグメントでプラス。  
計画との比較では、その他を除くセグメントがマイナス。

### 【セグメント別営業利益】

金融市場、遊技市場が計画と比べプラスとなり、  
流通・交通市場、海外市場、その他がマイナス。

## ● オープン出納システムの販売が堅調

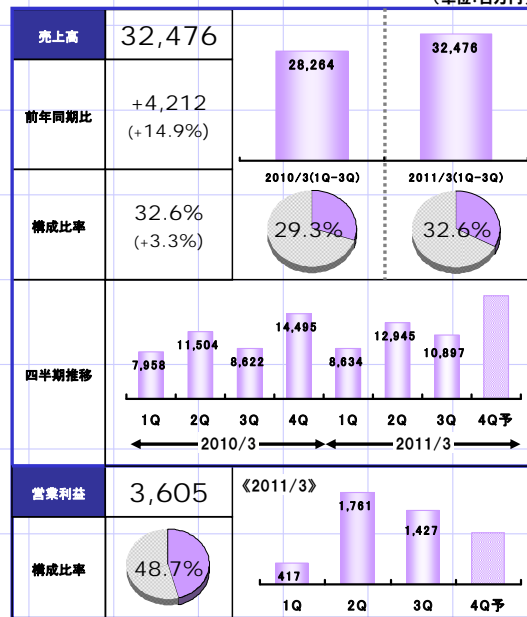
(単位:百万円)

オープン出納システムは、中小規模店舗向けのコンパクトタイプを投入したことにより、好調に推移。窓口用入出金システムやATM用硬貨入出金ユニットの販売も、更新需要により好調に推移。

### 主要製品の状況(前年同期比)



※矢印の傾きは売上高前年同期比の増減状況を表示



## 「金融市場」について

主要製品であるオープン出納システムの販売は、現行機に加え、中小規模店舗向けのコンパクトタイプを投入したことにより前年同期比プラス50%と堅調に推移。  
OEM商品の窓口用入出金システムの販売も、更新需要を確実に獲得した結果、前年同期比プラス122%と好調に推移。

売上高は前年同期比プラス14.9%の324億7,600万円、営業利益は36億500万円。

## ●レジつり銭機の販売が堅調

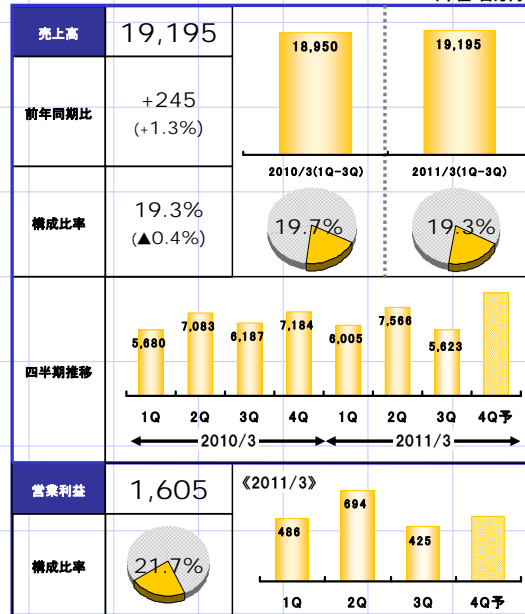
レジつり銭機や警備輸送会社向け店舗入金機が堅調であったものの、ガソリンスタンド向け小型現金管理機や店舗入出金機が低調に推移。

### 主要製品の状況(前年同期比)



※矢印の傾きは売上高前年同期比の増減状況を表示

(単位:百万円)



## 「流通・交通市場」について

スーパー・専門店で設備投資や新規出店の抑制傾向が続くなど、市場環境は厳しい状況。

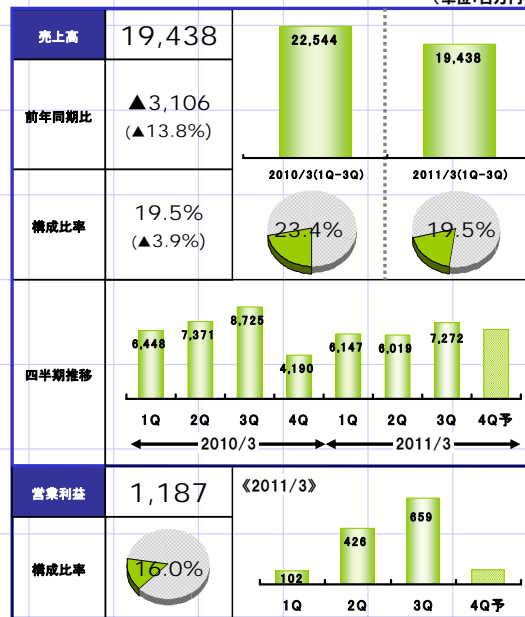
主要製品であるレジつり銭機は前年同期比プラス2%、小売店向けの小型入金機は前年同期比プラス13%と堅調に推移。市場全体としては比較的堅調に推移。

売上高は前年同期比プラス1.3%の191億9,500万円。営業利益は16億500万円。

## ●カードシステムの販売が低調

カードシステム等に対する設備投資の抑制傾向に加え、市場競争激化の影響もあり、当市場における販売は低調に推移。

(単位:百万円)



### 主要製品の状況(前年同期比)



※矢印の傾きは売上高前年同期比の増減状況を表示

## 「遊技市場」について

カードシステム等に対する設備投資の抑制傾向に加え、市場競争が激化。当市場における販売は低調。

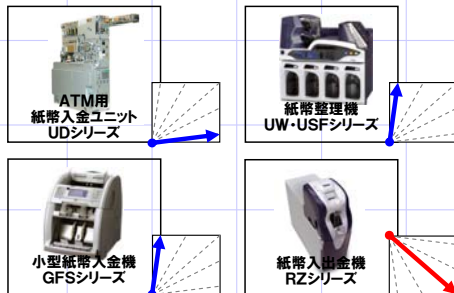
売上高は前年同期比マイナス13.8%の194億3,800万円、営業利益は、11億8,700万円。

## ● 紙幣整理機や新製品の販売が好調

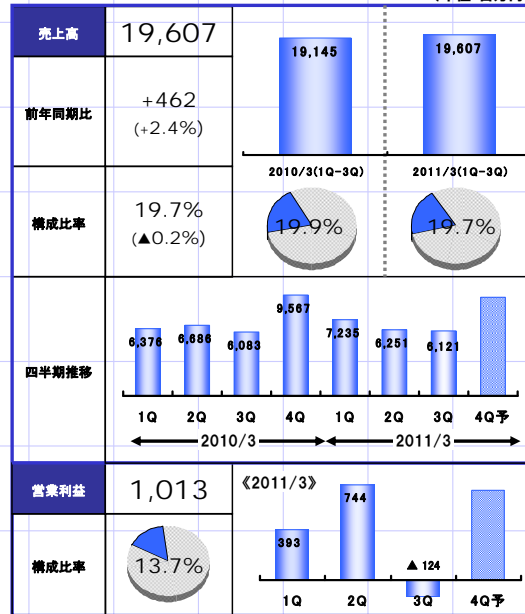
(単位:百万円)

紙幣整理機や新製品である小型紙幣入金機は好調であったものの、欧米において窓口用紙幣入出金機の販売が低調であったことに加え、第3四半期以降ATM用紙幣入金ユニットの販売が低調に推移。

### 主要製品の状況(前年同期比)



※矢印の傾きは売上高前年同期比の増減状況を表示



## 「海外市場」について

中国を含むアジアにおける紙幣整理機の販売が前年同期比プラス129%と好調。

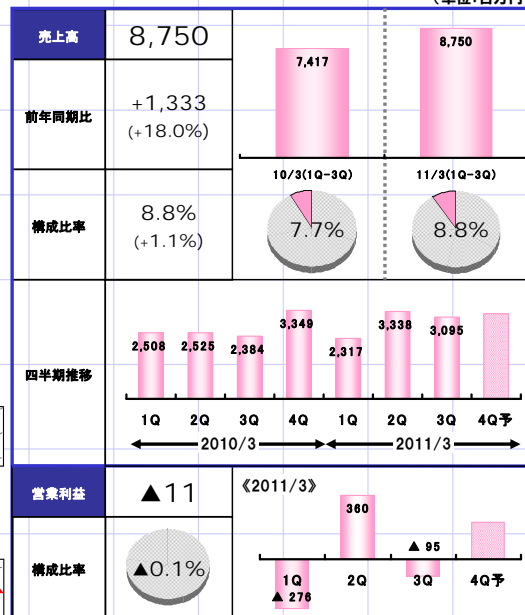
欧米向けの窓口用紙幣入出金機、OEM商品のATM用紙幣入金ユニットの販売は低調に推移。

売上高は前年同期比プラス2.4%の196億700万円、営業利益は10億1,300万円。

## ●主要製品の販売が好調

たばこ販売機や公営競技市場向け紙幣還流ユニットの販売が堅調に推移。

(単位:百万円)



### 主要製品の状況(前年同期比)



※矢印の傾きは売上高前年同期比の増減状況を表示

## 「その他」について

たばこメーカー向けのたばこ販売機やOEM商品の公営競技市場向け紙幣還流ユニットの販売が好調。

売上高は前年同期比プラス18.0%の87億5,000万円、  
営業利益はマイナス1,100万円。

# 地域別売上高

(単位:百万円)

海外 地域別売上高	(単位:百万円)			現地通貨ベース比較		
	2010年3月期 第3四半期 累計期間	2011年3月期 第3四半期 累計期間	差異	2010年3月期 第3四半期 累計期間	2011年3月期 第3四半期 累計期間	前年 同期比
米州	5,951	3,906	▲2,045	38,464千ドル (92.45円/ドル)	40,029千ドル (81.54円/ドル)	+4.1%
直販	3,556	3,264	▲292	円ベース ▲8.2%		
OEM	2,395	642	▲1,753			
欧州	10,422	10,898	+476	47,996千ユーロ (131.32円/ユーロ)	48,848千ユーロ (113.74円/ユーロ)	+1.7%
直販	6,299	5,556	▲743	円ベース ▲11.7%		
OEM	4,123	5,342	+1,219			
アジア	2,772	4,803	+2,031	20,800千ドル (92.45円/ドル)	49,251千ドル (81.54円/ドル)	+136.7%
直販	1,923	4,016	+2,093	円ベース +108.1%		
内中国	850	1,942	+1,092			
OEM	849	787	▲62	「直販」を現地通貨ベースで 換算した場合の比較 ・米州・アジア=12月末時点のレート ・欧州=9月末時点のレート		
合計	19,145	19,607	+462			
直販	11,778	12,836	+1,058			
OEM	7,367	6,771	▲596			

## 海外「地域別売上高」について

米州は依然厳しい状況。  
 中国をはじめとするアジアの直販は、前年同期比プラス108%で好調。  
 第2四半期まで前年同期比でプラスで推移していたOEMは、当第3四半期  
 累計期間ではマイナスに転移。ATM用紙幣入金ユニットの米州での販売  
 が影響。

[右側の表]

為替の影響を除いた売上高を比較するため、各地域の直販の売上高を現地  
 通貨ベースで換算し、記載。

# 設備投資他

(単位:百万円)

	2010年3月期 第3四半期(累計)	2011年3月期 第3四半期(累計)	前年同期比	過去5年間の推移
設備投資額	4,269	4,683	+414 +9.7%	
減価償却費	5,939	4,908	▲1,031 ▲17.4%	
研究開発投資額	6,316	6,306	▲10 ▲0.2%	

## 「設備投資他」について

設備投資額は、46億8,300万円、  
減価償却費は、49億800万円、  
研究開発投資額は、63億600万円で推移。

## 損益計算書

(単位:百万円)

(百万円)	2010年3月期 第3四半期 累計期間	百分比 (%)	2011年3月期 第3四半期 累計期間	百分比 (%)	増減
売上高	96,320	100.0	99,469	100.0	+3,149
売上原価	61,751	64.1	61,677	62.0	▲74
販管費	29,383	30.5	30,389	30.6	+1,006
営業利益	5,185	5.4	7,401	7.4	+2,216
営業外収益	1,424	1.5	1,051	1.1	▲373
営業外費用	250	0.3	668	0.7	+418
経常利益	6,359	6.6	7,784	7.8	+1,425
特別利益	452	0.4	301	0.3	▲151
特別損失	712	0.7	1,091	1.1	+379
税金等調整前 四半期純利益	6,098	6.3	6,994	7.0	+896
法人税等調整額	2,472	2.5	2,567	2.6	+95
四半期純利益	3,626	3.8	4,427	4.5	+801

①売上原価率：コスト削減活動の成果等により2.1ポイント低減。

②営業外損益：為替差損(480百万円)などが発生。(前年同期は営業外収益に保険返戻金(487百万円)を計上)

③特別損失：減損損失(358百万円)、退職給付費用(257百万円)、投資有価証券評価損(233百万円)

## 「連結損益計算書」について

売上原価は、構造改革の成果等により原価率は前年同期比で2.1ポイント改善。  
販管費は、前年同期比で10億600万円増加し、販管費率では前年同期と同レベルで推移。

その結果、営業利益率は前年同期比で2.0%改善。

営業外損益は、為替差損4億8,000万円などが発生。

その結果、経常利益は前年同期比でプラス22.4%となり、  
経常利益率は1.2%改善。

特別損益は、減損損失3億5,800万円、退職給付費用2億5,700万円、  
有価証券評価損2億3,300万円などを計上。

以上の結果から、税前三半期純利益は69億9,400万円となり、法人税等を  
差引き、四半期純利益は前年同期比プラス22.1%の44億2,700万円。

**売上高** 新製品による市場の深掘りが進み、前年同期から増加。

**利益** 売上高拡大とコストダウン策の推進効果により、前年同期に比べ増加。

(百万円)	2010年3月期 (平成22年3月期)	2011年3月期 (平成23年3月期)	前年同期比
<b>売上高</b>	135,105	145,000	+7.3%
うち 保守売上高	31,682 (23.4%)	32,000 (22.1%)	+1.0%
<b>営業利益</b>	7,685 (5.7%)	10,000 (6.9%)	+30.1%
<b>経常利益</b>	9,011 (6.7%)	10,000 (6.9%)	+11.0%
<b>当期純利益</b>	5,108 (3.8%)	6,000 (4.1%)	+17.5%

## 「2011年3月期の通期業績予想」について

昨年5月11日に公表致した予想値で着地見込み。

売上高は前年同期比プラス7.3%の1,450億円。

営業利益は前年同期比プラス30.1%の100億円。

経常利益は前年同期比プラス11.0%の100億円。

当期純利益は前年同期比プラス17.5%の60億円を予想。

## セグメント別売上高・営業利益

(百万円)	2010年3月期 (平成22年3月期)		2011年3月期 予想 (平成23年3月期 予想)		
	売上高	構成比	売上高	前年 同期比	営業利益
金融市場	42,759	31.6%	49,000 → 50,000	+16.9%	4,600
流通・交通市場	26,134	19.3%	28,000 → 28,000	+7.1%	2,100
遊技市場	26,734	19.8%	26,000 → 26,000	▲2.7%	1,300
海外市場	28,712	21.3%	30,000 → 29,000	+1.0%	1,800
その他	10,766	8.0%	12,000 → 12,000	+11.5%	200
内 自動販売機	6,381	4.7%	6,500 → 6,500	+1.9%	▲200
合計	135,105	100.0%	145,000 → 145,000	+7.3%	10,000

※左側の数値は2010年11月5日公表値

### 「セグメント別の売上高・営業利益」について

第2四半期累計期間の予想から若干見直し。

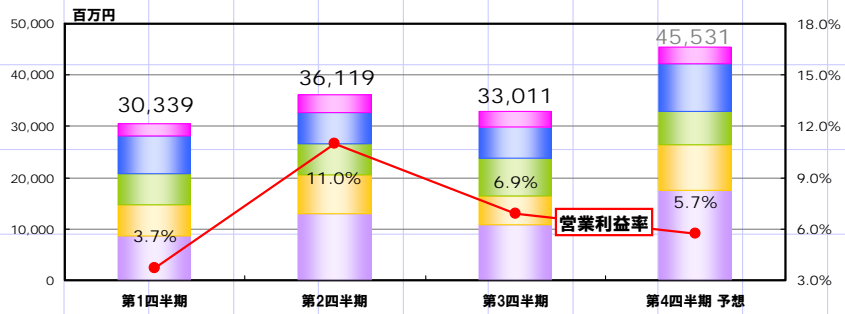
#### 【売上高】

前回公表値から金融市場はプラス10億円の500億円、  
海外市場はマイナス10億円の290億円に修正。  
その他のセグメントの変更はなし。

#### 【営業利益】

前回公表値から金融市場をプラス方向に、  
流通・交通市場、海外市場、その他をマイナス方向に修正。  
遊技市場は修正なし。

## 四半期毎のセグメント別売上高



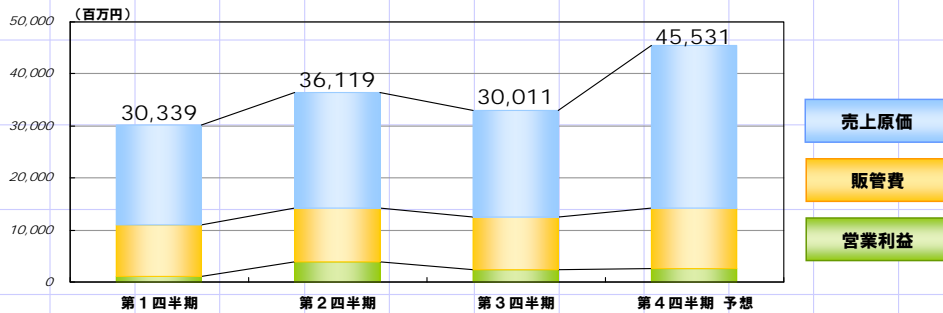
セグメント	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期 予想	年間 予想
金融市場	8,634(417)	12,945(1,761)	10,897(1,427)	17,524(995)	50,000(4,600)
流通・交通市場	6,005(486)	7,566(694)	5,623(425)	8,805(495)	28,000(2,100)
遊技市場	6,147(102)	6,019(426)	7,272(659)	6,562(113)	26,000(1,300)
海外市場	7,235(393)	6,251(744)	6,121(▲124)	9,393(787)	29,000(1,800)
その他	2,317(▲276)	3,337(360)	3,095(▲95)	3,250(211)	12,000(200)
自動販売機市場	1,097(▲294)	1,583(35)	2,130(▲82)	1,689(141)	6,500(▲200)
合計	30,339(1,123)	36,119(3,985)	33,011(2,293)	45,531(2,599)	145,000(10,000)

※右側の ( ) は営業利益

### 「四半期毎のセグメント別売上高」について

今期も売上高は、第4四半期のウエイトが非常に高い反面、手数料の支払いや販管費等の増加を予想。

## 四半期毎の営業利益



2011年3月期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期 予想	通期予想
売上高	30,339	36,119	33,011	45,531	145,000
売上原価 (売上高比率)	19,034 (62.7%)	22,136 (61.3%)	20,507 (62.1%)	31,323 (68.8%)	93,000 (64.1%)
販管費 (売上高比率)	9,911 (32.7%)	10,268 (28.4%)	10,210 (30.9%)	11,611 (25.5%)	42,000 (29.0%)
営業利益 (売上高比率)	1,123 (3.7%)	3,985 (11.0%)	2,293 (6.9%)	2,599 (5.7%)	10,000 (6.9%)

### 「四半期毎の売上原価、販管費、営業利益」について

#### 【売上原価】

第4四半期の原価率は、第3四半期比プラス6.7%を予想。  
設計委託先に支払う開発手数料等の増加が要因。

#### 【販管費】

第4四半期の販管比率は売上高の増加により、  
第3四半期比マイナス5.4%を予想。  
毎年、期末は支払いが集中。今期も販管費は第3四半期比プラス14億円を予想。

#### 【営業利益】

第4四半期の営業利益は、  
第3四半期比プラス3億円の25億9,900万円、  
また、通期では100億円を予想。

● 2011年3月期 配当予想修正

## 利益分配に関する基本方針

将来の事業展開に備えた財務体質の維持・強化を図りつつ、安定した配当を継続していくことを基本方針としております。具体的には

「**連結自己資本配当率1.5%を下限とし、連結配当性向25%以上を目標とした利益分配を行う**」  
こととしております。

1株当たりの配当金	中間期末	期末	年間 予想
前回予想 (2010年5月11日公表)	17円00銭	17円00銭	34円00銭 (配当性向38.1%)
今回修正予想 (2011年2月4日公表)	—	20円00銭	37円00銭 (配当性向40.5%)
当期実績	17円00銭	—	—
前期実績 (2010年3月期)	16円00銭	17円00銭	33円00銭 (配当性向43.4%)

## 来期以降の利益分配について

より一層株主の皆様への還元を図るべく、**配当の下限を連結自己資本配当率1.8%に引き上げ、**  
**連結配当性向につきましては引き続き25%以上を目標とした利益分配を実施させていただき予定**です。

「配当予想の修正」について

当社の連結業績と財務状況などを総合的に勘案した結果、  
今期末配当を17円から20円に修正。

今期の一株当たり配当金は、  
中間期末「17円」、期末「20円」、年間「37円」を予定。

来期以降の利益分配については、  
より一層株主の皆様への還元を図るべく、  
配当の下限を連結自己資本配当率1.8%に引き上げ、  
連結配当性向につきましては引き続き25%以上を目標とした利益分配を  
実施予定。

(2月4日 外部発表)

## ●製品ラインナップの強化

## 帯封機能付紙幣整理機 UWH-1000

キャッシュセンター等で大量の紙幣識別・計数・整理・帯封を1台で処理。

●発売時期:2010年12月中国仕様、2011年2月欧州仕様

## 【中国での使用例】



19

## 「海外市場向け新製品」について

## [帯封機能付紙幣整理機UWH-1000]

近年、中国で販売が好調な紙幣整理機UWシリーズに帯封機能を追加した新製品。

中国、欧州では、紙幣の正損分離等、偽造紙幣の流通を防止する取り組みの拡大に伴い、現金処理センターで大量の紙幣を迅速に処理する製品の需要も拡大。

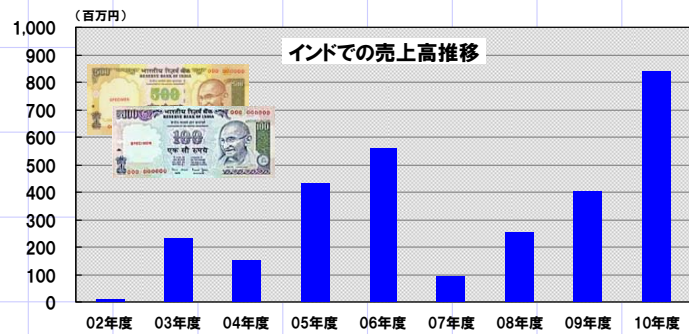
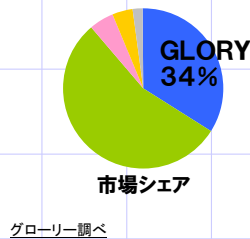
UWHシリーズは、従来、手作業が主流であった帯封作業を自動化、また、横幅は他社類似製品の半分程度と省スペース化を実現。

中国、欧州で順次発売。

## ●販売体制の強化

## インド法人の設立「GLORY India Pvt.Ltd.」

- 目的：現地法人を設立し、巨大市場を更に深掘りすることで、同市場での販売を飛躍的に伸ばす。（従来は1代理店体制）
- 設立時期：2011年4月予定 ●資本金：1億ルピー
- 本社：ニューデリー
- ポテンシャル：銀行数245 銀行店舗数 約84,000
- 売上高目標：2015年度 30億円



20

## 「インドの現地法人設立」について

## [目的]

成長が著しいインドにおいて、一層の販売強化を図る。  
代理店網の増強や市場情報収集力の強化など市場の深掘りを推進。

## [設立]

時期：2011年4月  
資本金：1億ルピー  
本社：ニューデリー

## [市場環境]

偽札の社会問題化で正確に紙幣を認識・識別する現金処理機のニーズが高まる。また、アジア地域で、インドは中国に次ぐ市場ポテンシャルがあり、今後も更に拡大することを予想。

## [目標]

2015年度売上高 30億円



代表取締役会長  
西野 秀人

(現役職)代表取締役社長



代表取締役社長  
尾上 広和

(現役職)取締役 執行役員副社長

※現 代表取締役会長の尾上壽男は取締役相談役に就任致します。

### 「代表取締役の異動」について

#### [時期]

2011年4月1日

#### [目的]

環境変化による新たな課題に迅速かつ柔軟に対応するため、機構改革と併せて経営体制の強化を図る。

#### [内容]

現代表取締役社長の西野秀人が代表取締役会長に就任、  
取締役執行役員副社長の尾上広和が代表取締役社長に就任。  
また、現代表取締役会長の尾上壽男は、取締役相談役に就任。

(1月28日 外部発表)